

SDGs Webinar 2020



— “今” を視て創造する新しい SDGs —

募集要項

名称	エスディージーズ ウェビナー SDGs Webinar 2020 — “今” を視て創造する新しい SDGs —
開催期間	令和2(2020)年11月～令和3(2021)年1月
開催形式	オンラインミーティング形式 (Zoom Video Communications を利用)
主催	独立行政法人 国立高等専門学校機構
共催	国立大学法人 長岡技術科学大学 国立大学法人 豊橋技術科学大学
開催担当	独立行政法人国立高等専門学校機構 福島工業高等専門学校 ISTS 及び JSTS 運営委員会 (教職員) Japanese Student Organizing Committee : JSOC (学生)
協力	B-Bridge International, Inc.



目次

1. 名称	1
2. 背景/問題提起	1
3. テーマ	2
4. 目的	2
5. 効果	2
6. 概要	3
(1) 日程	3
(2) 主催	3
(3) 共催	3
(4) 開催担当/運営	3
(5) 協力	3
(6) 講師	3
(7) 開催方法	4
(8) 内容	5
(9) 参加者	6
(10) 参加申込方法	6
(11) 参加費	7
(12) 参加要件	7
(13) 注意事項/ルール	8
7. 進行	8
8. その他	8
9. 問い合わせ先	9

実施概要

1. 名称
SDGs Webinar 2020
－ “今” を視て創造する新しい SDGs －
2. 背景/問題提起
新型コロナウイルスはわたしたちの実生活へ大きな影響を及ぼしている。この現状から、わたしたちは SDGs^{*1} を達成するための新しい取り組み方が必要とされる。現在、Face-to-Face で SDGs を実践することは難しい状況にある。
このような背景から、After コロナの社会では、従来の経済活動を地域単位で見直すことができる視野を持ち、IT ツールの活用技術を備え、地方創生のためのイノベーションを起こすことができる人材が求められる社会になっていくと考えられる。
このウェビナー^{*2} では、自分ができることを地域単位で見直し、問題提起を行い、その解決策を考え、新規ビジネスとして提案するアントレプレナーシップ^{*3} を体験する。すべてオンライン上で行うことにより、物理的な距離や対面での活動、モノ・コトの実体にとらわれず、広い視野をもって “今” の世界の現状を “視る” 力と新しい社会を創造する力を育成する。

*1 SDGs(エスディージーズ)：持続可能な開発目標のこと。2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいる。

*2 ウェビナー(Webinar)：WebとSeminarをあわせた言葉で、動画でのセミナーをオンラインで実施することを意味する。参加者は会場に足を運ぶ必要が無く、どのような場所においても参加することができる。配信方法として、リアルタイム配信と録画配信がある。

*3 アントレプレナーシップ：事業創造や新商品開発などに高い創造意欲を持ち、リスクに対しても積極的に挑戦していく姿勢や発想、能力などを指す企業家精神のこと。

3. テーマ

- ①SDGs・ESG^{*4}を学ぶ。
- ②地域の問題発見とその解決策を技術的側面から考える（ソーシャルドクター）。
- ③問題解決のために起業する場合のビジネスモデルを検討する。
- ④Society5.0^{*5}で活躍できる人財を育成する。
- ⑤グローバル^{*6}な問題からビジネスニーズを発見できる人財を育成する。

4. 目的

SDGsをベースとして自分自身の居住地の問題提起を行い、その問題解決のために地方創生・イノベーションをおこなう場合にどのような方法があるか考える。



SDGs17 アイコン

5. 効果

本ウェビナーの開催により、下記のような効果があると考えます。

- ①SDGs・ESGの体験
- ②アントレプレナーシップの形成
- ③リーダーシップの形成
- ④Think globally, Act locallyの実践

*4 ESG(イーエスジー)：企業の長期的な成長のために必要な3つの観点である環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取ったもの。

*5 Society5.0: 仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立すること。

*6 グローカル：GlobalとLocalを掛け合わせた造語であり、「Think globally, act locally」の考え方を意味する。

6. 概要

- (1) 日程
令和2(2020)年8月～9月：参加者募集
令和2(2020)年11月～令和3(2021)年1月：ワークショップ
(隔週/全5回)
- (2) 主催
独立行政法人国立高等専門学校機構
- (3) 共催
国立大学法人長岡技術科学大学
国立大学法人豊橋技術科学大学
- (4) 開催担当/運営
独立行政法人国立高等専門学校 福島工業高等専門学校
ISTS 及び JSTS 運営委員会 (福島工業高等専門学校 教職員)
学生運営委員 Japanese Student Organizing Committee (JSOC)
(福島工業高等専門学校 専攻科1・2年生)
- (5) 協力
B-Bridge International, Inc.
- (6) 講師
B-Bridge International, Inc.
梶本 博之^{ますもと ひろゆき} President /CEO

B-Bridge International, Inc.
派遣講師 (調整中)

国立大学法人長岡技術科学大学
工学部 生物機能工学専攻 生物環境工学講座
山本 麻希^{やまもと まき} 准教授 (調整中)

国立大学法人豊橋技術科学大学
グローバル工学教育推進機構
高嶋 孝明^{たかしま たかあき} 教授 (調整中)

(7)開催方法

①受講方法

オンラインミーティング形式で開催。

Zoom Video Communications を利用予定。

②受講の方式

- ・参加者各個人の自宅または参加者の所属校のインターネット環境（パソコン、Wi-Fi または光ネットワーク環境）を利用して参加する。
- ・原則として参加者は指定された時間にウェビナーに参加しリアルタイムで講師と質疑応答を行いながら受講する。都合が合わない場合は録画の視聴により受講することも可能。

③使用するツール

a. Zoom Video Communications

オンラインウェビナーの受講及びグループでのミーティングの際に使用する。

参加者はベーシックアカウント（無料）で参加することができる。ウェビナーのホストはプロアカウントを利用する。

各ウェビナーの開催日までに、学生運営委員 JSOC から「ミーティング ID」及び「パスワード」を通知するので、随時確認のうえ参加すること。

b. ビジネスコラボレーションハブ Slack

グループでの課題に取り組む際にチャット形式で情報共有を行う際に利用する。

講義時間外における講師や学生運営委員 JSOC への質問等は Slack で受け付ける。

c. Eメール

講師及び事務局からのオフィシャルな連絡は、Eメールより発信する。

④使用言語

原則として日本語を使用する。

(8)内容

①ワークショップ

- ・B-Bridge International, Inc. 榎本博之 President/CEO 及び榎本 President/CEO がコーディネートした講師と、長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学の講師から、隔週でオンラインでの講義を受ける。そこで与えられた課題について、グループで次回の研修会までにオンライン上で情報共有し意見交換を行い、調査結果を資料にまとめる。
- ・オンライン上で資料を共有し合い、各グループの資料について意見交換を行う。
- ・グループは1チームあたり5名程度とし、全国国公立高専専門学校生が3名、長岡技術科学大学もしくは豊橋技術科学大学生が1名、JSOC学生1名により構成される。
- ・グループでの活動の際は原則としてオンラインで実施する。
- ・グループでの課題達成に行き詰まった場合は、ビジネスコラボレーションハブ Slack にて B-Bridge International, Inc. 榎本博之 President/CEO 及び学生運営委員 JSOC へ問い合わせをすることが可能。
- ・ウェビナーの課題に取り組む際に、必要に応じて地域企業等への取材を行う場合は、原則としてオンラインで実施する。訪問での活動が必要となる場合は、必要最少人数で実施すること。

②発表会

ワークショップで学んだことをまとめてオンラインで発表会を行い、他のグループと情報交換や意見交換を行う。

※日程の詳細は【別紙1】参照のこと。

(9) 参加者

①参加人数

区分	参加学生数
全国国公立高等専門学校	15名程度
長岡技術科学大学	5名程度
豊橋技術科学大学	5名程度
学生運営委員 JSOC	10名程度
講師・教職員等	10名程度
合計	45名程度

②募集対象

- a. 全国国公立高等専門学校：
専攻科1、2年の学生及び専攻科進学予定の本科4、5年生を対象とする。一校あたりの応募は3名以内とする。
- b. 長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学：
大学院生を対象として、長岡技術科学大学と豊橋技術科学大学のそれぞれから各5名程度の学生の派遣を依頼する。

③学生運営委員 JSOC

JSOCはグループのリーダーとなり、ワークショップの指導を担当する。そのための事前研修として、JSOCは令和2(2020)年7月から9月にB-Bridge International, Inc. 榎本博之 President/CEO 及び榎本 President/CEO がコーディネートした講師から、隔週で講義をオンラインで受講し、11月以降のウェビナーの事前研修を行っている。

本ウェビナーへの参加者は、JSOCの事前研修会の様子の録画を視聴することが可能である(8月以降随時公開予定)。希望者には別途視聴方法を案内する。

(10) 参加申込方法

①申込方法

参加を希望する学生は、所属校の事務担当者をとおして福島工業高等専門学校 ISTS 及び JSTS 運営委員会事務局へメールで下記の書類を提出する。応募者多数の場合は選抜により参加学生を決定する。

送付先メールアドレス：f-jstsists@fukushima-nct.ac.jp

②提出書類

SDGs Webinar 2020 参加申込書 【別紙2】

自由記述「地域の課題とSDGs」(A4用紙1枚・形式自由)

*地域における問題を2つ以上挙げ、SDGs17のアイコンと紐付けて解決方法を自分なりに考えること。

③申込受付期間

令和2(2020)年8月3日(月)～9月30日(水)

④求める参加者像

学業成績が優秀かつコミュニケーション能力が優れている者。

SDGs17の普及に熱意がある者。

Think globally, Act locally を実践したい者。

将来、起業を考えている者。

⑤選考結果通知日

令和2(2020)年10月中旬 予定

(11)参加費

無料

(12)参加要件

①原則としてすべての講義に参加すること。リアルタイムでの参加が難しい場合は録画を視聴してグループワークの課題に取り組むこと。

②オンラインでのウェビナーの受講環境が整っていること。

・パソコンまたはタブレット端末を所有していること。

・Wi-Fi または光回線によるネットワーク環境があること。

・カメラ及びマイクが付いている端末もしくはウェブカメラやイヤホンマイクを保有しており、オンラインでの会話ができること。

注※ ネットワーク環境の整備及び受講に係る通信費等は、参加者の自己負担となる。

- (13) 注意事項/ルール
- ①オンライン会議の URL を外部に漏らさないこと。
 - ②ウェビナーに関わる内容を SNS に掲載しないこと。
 - ③著作権を侵害しないこと。
 - ④地域の人に取材等への協力を依頼し、写真や動画等を撮影・使用する場合は、必ず肖像権の許可を取ること。

7. 進行

①参加者募集

募集開始 令和 2 年 8 月 3 日(月)
募集締切 令和 2 年 9 月 30 日(水)
選考結果通知 令和 2 年 10 月中旬

②ワークショップ 【別紙 1】 参照

第 1 回 令和 2(2020)年 11 月 7 日(土) 9:00~10:30
第 2 回 令和 2(2020)年 11 月 21 日(土) 9:00~10:30
第 3 回 令和 2(2020)年 12 月 5 日(土) 9:00~10:30
第 4 回 令和 2(2020)年 12 月 19 日(土) 9:00~10:30
第 5 回 令和 3(2021)年 1 月 9 日(土) 8:30~12:30

※各ウェビナーの開催日時は変更となる可能性がある。

8. その他

- ①すべての講義をオンライン上で実施するため、参加者及び講師、スタッフ等の関係者の宿泊先や食事の手配は行わない。
- ②本ウェビナーの受講による単位認定は行わない。
- ③ウェビナーの開催時間が所属校の講義時間と重複する場合は、所属校に確認し参加者自身で適宜手続きをとること。なお本ウェビナーはリアルタイムでの参加を原則としているが、この限りではなく、後日、録画の視聴により受講することも可能とする。

9. 問い合わせ先

独立行政法人国立高等専門学校 福島工業高等専門学校

ISTS 及び JSTS 運営委員会事務局

(学生課 教務係 国際交流事務担当)

Address : 〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾 30

TEL : 0246-46-0957

FAX : 0246-46-0742

Mail : f-jstsists@fukushima-nct.ac.jp

以上